増し刷りして，ご利用ください。

子どもたちの輝く未来のために！

平成19年７月20日発行

教育センターニュース

ミネルバ

104号

佐賀県教育センター http://www.saga-ed.jp/
〒840-0214 佐賀県佐賀市大和町大字川上
TEL 0952-62-5211　　FAX 0952-62-6404

特集記事
- 特別寄稿
- 教育講演会(要旨)
- 特色ある学校の紹介
- 教育センター知っ得情報

〈特別寄稿〉

「佐賀教育モデル」への期待
～佐賀県教育への想いから～

東京純心女子大学副学長　新富康央

「出会い」と言えば，一般に「始まり」のイメージがあります。だが他方，通り過ぎた生活を振り返るのも，新たな「出会い」の始まりです。佐賀を離れた今，生活軸を移して，改めて佐賀を振り返るのも，「佐賀教育」との新たな「出会い」でもあります。

20年近く前，「国際青年年」のとき，佐賀県では青少年課と社会教育課が行政の壁を越えて，大キャンペーンを実施し，年５回の積み上げ式の青年フォーラムを開催しました。100人を超える青年が毎回集まってくれました。「フォーラムと言うから，歌と踊りの会と思った」と，始めはうそぶいていた青年もいました。しかし，最後には，ＫＪ法を用いたプレゼンテーションや貴重な提案を基にした冊子作りにまで，フォーラムを進化・発展させてくれました。実行委員の若者は，何度も青年会館に集まっては，徹夜で討論。朝，そこから出勤する仲間を，一人ずつ笑顔で見送ったものです。農家の青年が熱い思いで，夜なべして書きなぐった鉛筆書きの原稿に「佐賀教育」の底力を感じました。

中央と地方の格差が問われています。だが，教育に関しては，地域毎の特性はあっても，格差はない。今なら，そう断言できます。「佐賀教育」は，単なるイメージではなく，確実に存在します。家庭教育に関しても同様です。東京では，「子育て文化」は育ちません。東京という土壌では，子育てや子育て支援に対して，敬意と尊敬を払う文化の醸成は，かなり困難なのです。子育ても，大人にとっての都合が優先されやすいからです。教育再生会議の議論が，正直言って，われわれ佐賀人にとって理解しがたいのは土壌の違いではないか。このことが昨今，実感をもって分かりかけてきました。同じ言葉を使って，子どもの危機を訴えたとしても，それが含意するものは異なっているのです。「子育て文化」が違えば，当然「子育ち文化」も異なります。

佐賀の「子育て文化」，佐賀の「子育ち文化」を集めていけば，自ずと「佐賀教育モデル」は，実体あるものに構成されていくでしょう。「佐賀教育モデル」の開発とその確立を期待しています。

平成19年度　教育講演会

TOPIC！

『温かな学級経営のポイント
― 教師に求められるソーシャル・スキル ―』

都留文科大学大学院教授　河村茂雄　先生

５月22日に佐賀市文化会館において，河村茂雄先生の講演会が開催されました。

― 講 演 要 旨 ―

いじめが起こったとき，被害者と加害者に注目が集まるが，学級という閉鎖的な集団の状態も大きな影響を与えている。Ｑ－Ｕ心理テストを使って学級の状態を分析すると，①満足型　②管理型　③なれあい型　④荒れ始め型　⑤崩壊型の５つの型に分類することができる。かつては，ルールは確立しているがリレーション（関係）が確立していない管理型の学級が多く見受けられた。この型では先生の言われたとおりにできない生徒をターゲットにしたいじめが起こる傾向にある。最近では，所属意識が薄く幾つもの小グループを形成するなれあい型の学級が増えつつある。この型ではいじめが発生しやすく，嫉妬を覚えるような目立つ生徒をターゲットにしたいじめが起こる傾向にある。それに加えて教師がいじめの実態を把握しにくい状況になっている。

学力に関しても学級の状態が大きく影響している。満足型の学級ではモデル効果が生まれ全体的に成績が伸びる傾向にあり，管理型の学級は成績が伸びる生徒とそうでない生徒との差が激しくなり，なれあい型の学級は成績が伸びる生徒が全体的に少なくなる傾向にある。

一方，集団の中での人間関係をうまく築けない学生が大学でも増えてきている。そういう学生は就職をしても離職率が高く，社会不適応となってしまう場合もある。

こういった状況の中，教育の果たす役割は大きく，特に教師には温かな学級経営の力が求められている。教師同士がチームを組んで，生徒たちの状況を把握し，分析して，やるべきことに優先順位を付けながらよりよい学級経営を目指して意欲的に取り組むことが重要である。

― 参加者の声 ―

○　河村先生のエネルギッシュなお話に勇気付けられました。データや学校の実態に基づいた話はとても説得力がありました。ぜひ，自分の学級，学年，そして学校の職員との協力を見直し，子どものための教育について考えていきたいと思います。（小学校教諭）

○　「教師はチームで取り組むことが大切である」という言葉が特に印象に残りました。日ごろから声かけや認め合い等を通して，互いに協力しつつ学級経営づくりをしていくことが，満足型の学級集団づくりへとつながっていくのではないかと思いました。（中学校教諭）

○　学校の先生方の苦労が大変よくわかりました。私たちも先生方の日々の努力をよく理解し，子どもたちの学校生活がより良いものになるよう応援したいです。（保護者）

○　Ｑ－Ｕの話は参考になりました。我が子のクラスでも実施してほしいです。（保護者）

― 河村茂雄先生の近著 ―

「学級づくりのためのＱ－Ｕ入門　楽しい学校生活を送るためのアンケート活用ガイド」
「データが語る　１　学校の課題」
「データが語る　２　子どもの実態」
「データが語る　３　家庭・地域の課題」
「公立学校の挑戦　中学校　人間関係づくりで学力向上を実現する」粕谷貴志との共著

※　いずれも図書文化社刊

特色ある学校の紹介

武雄市立西川登小学校　どの子ものびる「のびのびタイム」

本校は，武雄市の西南端，六角川の源流である神六川沿いに位置し，豊かな自然に囲まれている児童数106名の小学校です。

本校では，文部科学省が平成17年度からスタートさせた「学力向上拠点形成事業」の指定を受け「確かな学力を身に付け，豊かに学ぶ児童の育成」を研究主題として，学力向上に取り組んでいます。

学力向上の手立ての１つとして，週に３時間の「のびのびタイム」があります。「のびのびタイム」とは，15分区切りのモジュールでの学習を３コマ組み合わせて１単位時間とし，教育課程に位置付ける取り組みです。国語・算数を中心とした，基礎的・基本的なドリル学習を繰り返し行うことで，確かな学力を身に付けることをねらいとしています。今年度は，国語・算数に加えて，その取り組みを社会や理科にまで広げています。

「のびのびタイム」によって，各教科の基本となる技能が身に付くだけではなく，子どもたちの脳の活性化が図られるという効果が見られるようになりました。１日のスタートである１時間目に百マス計算や音読などに集中して取り組むことで，その後の授業への取り組みが意欲的になるなどの目に見える変化が表れており，学力検査の結果も向上しています。さらに，本校では児童と教師が一体となった豊かな人間関係をはぐくんでおり，そのことも児童の学力を支えている要因となっています。緊張感をもって児童が取り組めるテンポのよい学習題材を工夫し，今後も児童の集中力を高めていきたいと思います。

これまでの研究の成果として，**授業研究会を11月２日（金）に開催**します。１～４年生では「のびのびタイム」，５・６年生では理科・社会の授業を公開する予定ですので，ぜひ参観していただければと思います。

佐賀市立金泉中学校　元気あふれる学校

本校は，佐賀市北部の自然環境に恵まれた田園地帯に位置する生徒数239名，８学級の中学校です。

本校では，地域全体の願いを込めた学校目標を設定し，学校長をはじめ全職員が一丸となって「元気あふれる学校」を目指した手立てを講じてきました。その結果，生徒が自らに自信をもち，そのことが予想を超えた学校の活性化につながっています。本校では，生徒のよさを伸ばすために，様々な活動の中に多くの出番をつくり，役割の大切さをみんなで考え，一人の活躍をみんなで認める必要があると考えました。この「出番・役割・承認」が本校の「開発的生徒指導」のキーワードです。また，学校運営には「師弟同行」の精神も重要であると考えています。そこで，学校長が生徒に対しても校内研究の目標を示し，職員と生徒が同じ共通認識をもつために，生徒を交えた拡大研究推進委員会を開催しています。

開発的生徒指導の具体的な取り組みとして，「黄金の一週間」と「異世代交流活動」を設定しました。「黄金の一週間」とは，ある節目からの一週間を生徒の心を大きく揺さぶることのできるチャンスととらえ，生徒の「頑張ろう！」という気持ちを見いだし，生徒の気付きを行動に移すための手立てを職員が生徒と共に講じていくものです。「異世代交流活動」は，年齢や世代の異なる集団がテーマをもって触れ合うことにより，豊かな人間性や社会性を身に付けさせることが目的です。これらの取り組みにより，長期的には本校を含む地域全体の活性化を図ることができると信じています。

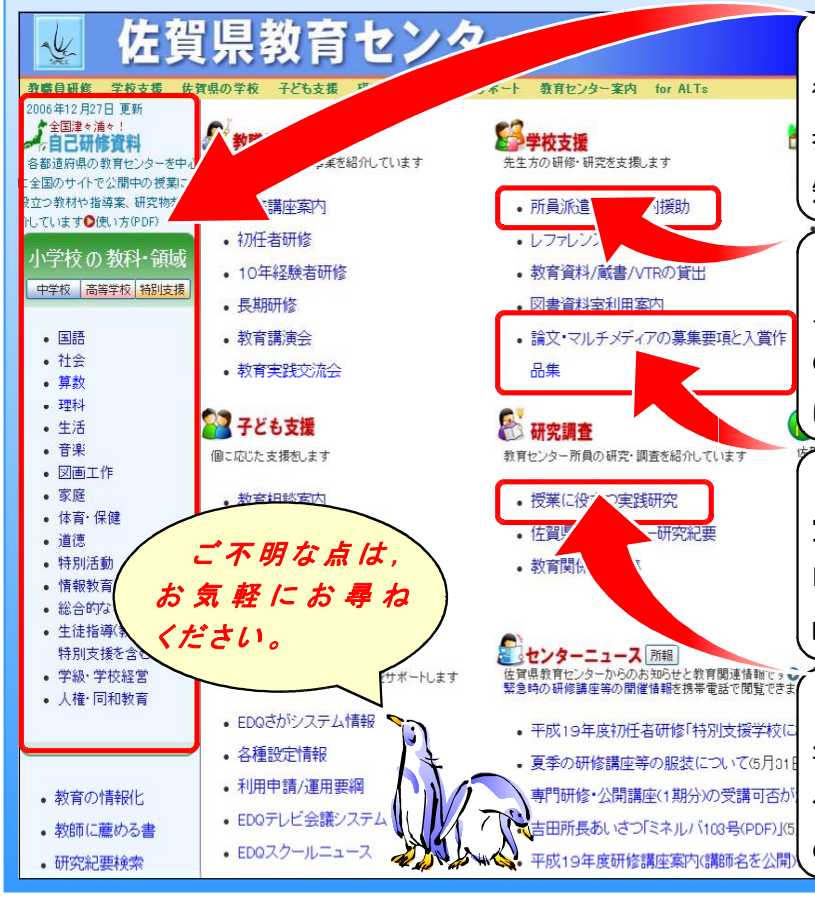
※　金泉中のこれまで３年間の取り組みは，倉本哲男編著**「開発的生徒指導論と学校マネジメント」**（ふくろう出版）に詳しく紹介されています。お問い合わせは，金泉中学校まで。

※　ミネルバでは，これからも特色ある学校を紹介していきます。

教育センター　INFORMATION　知っ得情報

教育センターは先生方の研修をサポートします！

夏季休業中は余裕をもってじっくり研修に取り組むチャンスです。今回は，自己研修や校内研修に役立つ教育センターホームページお薦めコンテンツを紹介します。



「全国津々浦々！自己研修資料」授業に役立つ教材や指導案，研究物，手引きなどを約15,000件の豊富なコンテンツの中から短時間で簡単に探すことができます。

「所員派遣援助・所内援助」センター所員が各教科・領域等に関して先生方の研修のお手伝いをします。依頼方法など詳しくは，こちらから。

「論文・マルチメディア募集要項と入賞作品集」入賞論文が閲覧できます。また，「研究計画の立て方・研究の進め方」のＰＤＦファイルのダウンロードもできます。

「授業に役立つ実践研究」各学校の先生方に役立つ研究（県の教育課題を解決するプロジェクト研究，各教科・領域等の所員の実践的研究）の成果を発信しています。

教育センター研修室を有効にご利用ください

今年度から，「佐賀県教育センターの管理に関する規則」第14条に基づき，次に該当する場合も教育センター研修室を利用することができます。

希望される団体等は，教育センター総務課（TEL 0952-62-5211）へお問い合わせください。

① 佐賀県内の教職員で構成する研修団体が主催する教職員対象の研修（出張扱いのもの）であること
（例：県立学校の教科等部会，市町教委主催の研修など）
② 教育センターの勤務時間外にかかるものでないこと
③ 利用時間は，９：００～１６：３０の範囲内であること
※ なお，許可の申請は１か月前より受け付け（３か月前より仮予約可），維持管理費（電気料，水道料等）の徴収が必要であると認められる場合は，別途徴収します。

＜編　集　後　記＞

今号では，特別寄稿として，この春まで佐賀大学文化教育学部で教壇に立たれていた新富康央先生に佐賀への想いを綴っていただきました。新富先生には，教育センター講座をはじめとする様々な研修会でご指導，ご助言をいただいてまいりました。長年にわたる佐賀県教育へのご尽力，ご功績にあらためて感謝するとともに，新天地でのますますのご活躍を祈念しております。